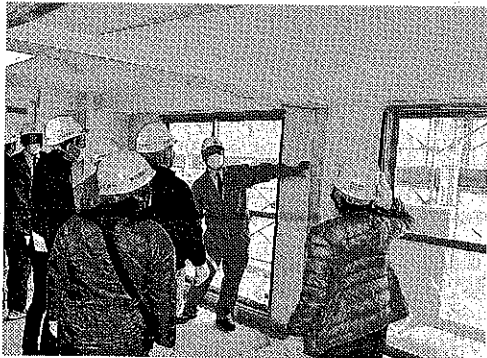


業界の魅力アップへ見学会 兵庫県協議会



仕上げ工事を見学する保護者ら

建築を学ぶ高校生の保護者らに工事の魅力を知ってもらおうと、兵庫県内の行政機関や建設業団体などで構成する兵庫県建設業魅力アップ協議会は1月29日、小野市神明町で建設が進む県営住宅で現場見学会を開いた。県立東播工業高校の保護者や生徒ら約10人が参加した。保護者らが訪れたのは平錦建設（姫路市）が施工する「県営小野神明住宅第2期建築工事」（RC造5階建て40戸延べ22

平錦建設施工の現場 東播工高生と保護者が参加

30平方メートル。現場を指揮する大西正城所長（平錦建設）から工事の概要や進捗（しんちよく）状況の説明を受けた後、現場に向かい、参加者は5階から順に建具や防水、仕上げの金属、間仕切り工事などを見て回った。大西所長は▽工程▽原価▽品質▽安全の四つの管理を徹底し、中でも「安全が最も重要」と説明。同社の三俣幾男工務部長は「建設業は誇れる仕事。将来は建築施工管理技士や土木施工管理技士を目指してほしい」と話した。

現場を見学した後、意見交換があり、入社後の仕事内容や高校時代の過ごし方などの問いに、三俣部長は「若手時代は図面を理解することから始まる。高校時代は基礎知識をしっかり学んでほしい」などと答えていた。

見学会に参加した保護者は「いろいろな仕事があることが分かった。子どもにも建設業を勧めたい」と話していた。